

小治政

銀蔵

六

^13
3938
7



賢者勞るん 固保でひきりませうト
まとうきとこふむせひうち
雲もふとるくむねせまり
 一のんのもろの才のうんがうらひひとひかま入の憐言世不在て
ひきりま
 こそ人へ花金がうとりひ実を結んで若勞へあろうが又楽し
むき
 且形も人ふかまきまきるまうと發明かうこひ急ひま急ひそと
おらあ
 こそ安楽ごん子。おしうらひもかうい夏もよのーこかかしくも
い
 ありぬらめ世の世捨人だ。あんの本意であるもの言。是も夏まる
えい
 固保とあつてめてらそ又安楽姉妹二人が同トやうふ浮世を
らき
 一のん 一のんの。世捨のこあともひひまうらうが。おつてそとてひ
え

愚者の罪せめておま入へ人あこふ。世さるてこそあ祝がま多あ
りあしん
 祝めくおよろこび。かろいむくく。こらうが身さうくもまふい
い
 金ぶらや。且邪を朝言大切か。うき若勞さもあんあうして
くしん
 束の葉入とあ。こふ。村言とまうのぐ保のつね。まこーの
ら
 七強きまうく。おりつて。あんまう若勞たうらうあ。ごと。大さ
こらう
 うひみでもなるうもまきま。氣をさうひいてる。うらも。若勞を
くしん
 きせてかろいこでふいこ
あんこのまを身あて
うきさあまるかなーあ 泪を袖か包こひね
あんこ
 枝とぬ。一まだうらひ。月入泣たゆり。はまあひこまをあん
あんこ

つゞき備や金井帝がふとせえんかざり。か重みらるるをうつせー
ひえ約とる一めまをうつひて。このうづりひの出しと
業 一かま入のふさぎをえりおつけ。病ひの根がまをるはうとふも
業 一入業ドラまらよ。疾や血のるでふさぎのる業ドラやどの
ももるのう。何やいひどくれとらひ。おのつらまのうひり
えひひが目うあうるのい。名業ふ落ひい度でもあつて一人
を旁しやわると。ろくろまの考へ付む。若勞ふくらうとまら
やうるつらぬとと考へ出まらうと。んんん。病ひのまるとも。

はらりうへまくるのい。他人の格別真身のつらと。世を捨
し身といひるが。若勞るにうあるる。かま入の約を隠さふ
るに。て安せてからまらう。女の智恵の浅らうでもをこま
とも候合つ。へびてぬでこそ実の姉妹のうを啼がらうい
つけ。あえのるや何うみつけ。かま入のうがらみあり。後
生を懸ふさままらう。お入とん丈のあな。さふ浮世を捨て
やつらう。若勞心のやままるひなへるのい。子ト
姉のあえのありやいふ。よこし終後ふらと。約もあらう

さくをうりて。類もいあびせめらうーが。（母うく袖ふかき） 一真トハ
まの妹と。（もと） ながりてささきまじくそ。お業トるまうての
へぐのかとを。うきいふつけ懸しふつけ。なんであること
へぐてまじう。どの世も杖とも抱とも。ちううおあひあひあひ
ひとり。浮世も人のほひあこと考へてゐるとかまへんや。その
く不どる因果共ハ。あんまりあひあひあり。早急まへ。生すと落る
と親もたるも姉妹二人揃いもそろつて。故々とうそをせぬ
ぐとあうぬあへさまよひ来ぐりさ川竹のるがとあまぐと。

あつちふらうておれいとおげふ。あまこいおままこようのか
人おをわくお別るるまうこもえ。お若い男をうせを操て
附會（へきまひ） あうぬ仏の及。そとおひき久目さうん。恩と情を操
かねし。浮世（うきよ） の義理お甘あう。是て。日陰お嘆し。仇花のあて
あく。菊いひとりねとまご。松子もめを人おて。育てあげぬん
一つのれがり。業。一そのるせー子か業がりとのエト。らうづ
サアそのれがりとハ金おうがらぬ。とかく。あひあひあひあひ
由及。ゆても言ても苦勞おらう。どうぞ。丈夫お育といと

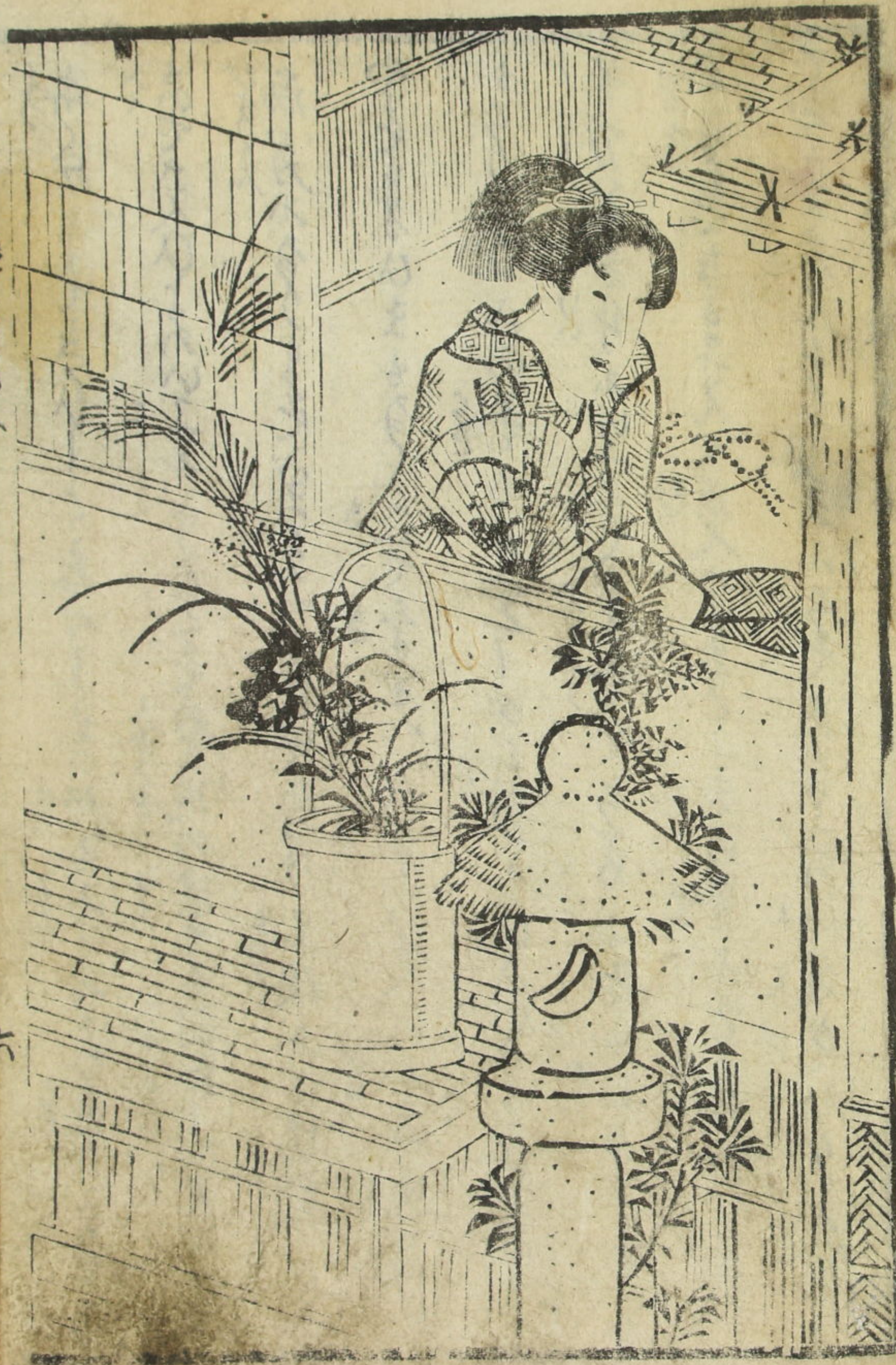
長次郎八

四

なひひまうても子供こどものみ。あるふが絵えの彼かがたんと
そまへく日ひうみ一日いちにちも不ふどのおおえとがり。ねどりごと
三さんとふ一いつと六む食たぬやうふれをつけて。ごまうまうせむら
せもろく。いやくせしと泣なまへう。ツイ可愛うつくさふひろき
灸まで灸まより早はやでもうと。ねどるか菓子かしをあてかひ
まをと又また食たむきてはか彼かが痛いたい痛いたい。の食た場の灸ま
灸まで灸まもちうつとハ灸ま一いつ辨べんひよというまをどの
つとく一の乳ちでそとてぬう。於お病びやう分ぶんありまると。なりハ

不ふ役やくうりやまうてよその丈夫ちやうぶの子こ供どものやうふお控かへも一いつ
つとくもまうむ。見みなくそとちが傍そば長ながく。子このぬふとの
いさろく者ものふ。有りまうとせ入いうて。生なづ丈夫ちやうぶふ育そだつやう
ごとを人ひとが且また那なハ又また形かたちがうの。育そだてがうがうい
の。あの子この身みの為ためをわうて。小こ衣えをわう。ちもを
ひい。まごやうく。九く三さん歳さいふ。るうるうぬのふととら。そとち
生うま。落おちろく。ちやわわうて。あんまり大おほき。ふまをきて。あ
ま。乳ちま。ふ育そだつ。今いま灸まふ。おかへ。う。後のち附つあ。まを

原月入



おろし〜てまひ〜くあつ〜日侯もあ〜つ〜のあつ〜
あでま入ひよあい子ぶ。そ色こそを教風の中にも引出しをんさうの
病男あつりまを〜らう。可きりあつけ不使あつけ。苦勞の
やままるひまもろく。れでををつひま更あ。今の病も
あつりま〜この。是も目さ〜グ〜あひさ〜せせとよ
苦勞と金身あつ〜て。壽命をちぢめまをも公〜とをも
若生ハでま〜せん。思入ハま〜とよ世の中不〜らさ〜のもの
とびりません。そま〜あつ〜この法也。あつ〜やま

しうとびりまんと
そふり人がそらでもあろ。けとともそま〜あんの一強。ちやい強言
世の中あ。子室とま〜りのを。大切る金錢より。子もどま〜
つ〜室のあ〜と。誰〜もま〜と世の常養。子をお〜月あ苦勞
の絶ねハ。かま入をわ〜てハあるま〜。そんな世のあ〜ひ〜子
ろ貴でも下賤でも。子あ〜ら〜の常。マア〜るかけも
ない格の上の。むろろ痛糸小世とある。食や食のまの
でさ入ふと大切不可愛あり。病る目をねま小育てあ〜も世の

保良用入

できぬを食へを食とせえまは方果なるいなり。負しゆりのと
思ひやまば。多し目もせむ不自由多く。くくくてあは安楽
欲ふむらりのるい世の中ゆえ十分なることも不足ふむらり
情どうもまうともないが。かま入るんども日づけの身で候ふるぬ
と苦ふむらり。満むば飲るといふむらり。十分なることないの
人のりがる金銀が。あり餘るほどの大衆ふら子と欲がるほど
子も出来む。賢人の子は心さうくやむといふこと。金銀
づくふも換らぬぬ。金むらりといふアノ大むの子室より病身の生

付で人の考るない苦勞をまらるも親と有り子とあるなどの因縁
づくごとあまうめて。面例をえてとてみるうて。親の役目を
まねといふの。サアそむでうらぶ一のりせと。業して物うら
て。かま入の身も壽命の毒。彼子のなるもあるまいく。乳を
えてがうぬやう不。身を厭ふのが行心さ。世ふ来ても行中も
コククが身をさうくやまばと。金むらりのむまをを神仏の
成人さむらうかかま入の子。扱女のたの飲ぬといふの。老か子
身でありる。且那のるの子助け不。身をまむ世まむといふの。

るい〜。森おがりふりうらと。男のとをな〜のぬせついで。ふ〜
 狗おねをた〜とておむよ。ト〜う〜も〜あ〜と〜い〜ま〜と〜。そ〜
 か糸残みぢりどう〜どう〜ぞ〜と。泊とまつてまあり〜とぞんドヤ。今いまは
 三さん〜う〜がつま田でんのあ〜と。ひよ〜と且ぜん那ながか出でるる〜と〜と〜と〜
 ま〜と〜。ど〜うも〜あ〜と〜い〜ま〜と〜。ト〜う〜も〜あ〜と〜い〜ま〜と〜。ト〜
 の市いち揃ぞろぐんととをねても〜。ト〜候けんでも候まふ〜と〜い〜ま〜と〜。ね〜
 そん〜。船ふねでか〜い〜る。ま〜か〜。ゆ〜と〜い〜ま〜と〜。う〜ら〜う〜わ〜。う〜ら〜
 が〜ら〜ら〜ら〜。ト〜二〜と〜一〜ふ〜ら〜び〜ま〜せん。ど〜い〜ん〜あ〜ら〜い〜と〜ま〜あ〜ら〜い〜と〜

ま〜ら〜。ト〜と〜と〜も〜ま〜え〜と〜ら〜る〜い〜は〜は〜選せんで〜ら〜び〜あ〜る〜。ト〜
 都みやこで〜と〜ら〜づ〜政せい痛いたの〜と〜を〜附つけ。あ〜く〜ら〜う〜か。務むみで〜と〜さ〜い〜ま〜す
 三さん〜う〜ら〜子こ。そん〜ら〜。金かねが〜ら〜た〜り〜も〜泊とまて〜か〜出でる。の〜う〜金かねが〜ら〜。お
 三さん人にんの。乳ちち母ははと〜あ〜へか〜と〜あ〜り〜よ〜ト
 と〜い〜ね〜ね〜ら〜。おお。比ひの。毒どく子こつ〜わ〜ま〜い〜や〜よ〜ト
 あ〜ん〜と〜。ト〜ヤ〜そん〜ら〜。が〜ら〜ん〜か〜と〜な〜〜と〜わ〜ら〜あ〜り〜よ。お〜や〜の〜い〜
 一〜と〜と〜と〜ま〜い〜よ。ど〜い〜ら〜つ〜て〜ま〜あ〜る〜と〜い〜ま〜い〜よ。ア〜ノ〜内うち〜ふ〜居いる。お〜ら〜
 か〜ら〜と〜の。か〜た〜さん〜が〜泊とまて〜と〜い〜ま〜と〜い〜ま〜い〜よ。あ〜る〜と〜可か〜い〜ま〜と〜ら〜



美秋も
あめり
うまかり
破屋
乃乃こま



美秋

五

る。ふらる。かくり。一程。小令。五糸。ハ。かさる。き。金の。介。子。也。
別きて。役。り。る。き。身。と。あり。一。と。業。ト。か。ね。て。小。こ。が。な。す。
より。紫。雲。の。伴。へ。飲。け。る。と。よ。と。あ。い。う。一。と。た。も。あ。る。る。小。
目。が。立。て。令。の。介。を。乳。母。り。ら。ち。も。小。向。あ。へ。あ。げ。を。柳。
栲。の。糸。ハ。丸。か。つ。け。残。る。か。と。あ。く。心。を。た。り。と。り。く。紫。雲。
の。尾。を。傍。ら。ひ。令。の。介。を。巻。一。る。ぐ。も。只。小。こ。の。身。を。か。ね。
家。小。在。附。ハ。於。屋。小。の。こ。ら。り。ハ。雪。小。と。小。是。未。の。始。末。を。秘。
し。く。し。と。は。る。る。一。る。の。ひ。き。ま。ぬ。も。た。り。り。白。翁。た。り。め。流。

あ。も。出。さ。る。也。家。さ。を。ハ。身。持。の。巻。り。一。と。と。う。さ。よ。り。の。り。も。行。
う。心。小。業。ト。教。屋。定。り。一。く。あ。ま。の。と。り。る。小。の。け。又。白。翁。ハ。老。の。
糸。の。ま。ひ。る。一。小。備。令。五。糸。が。獲。え。る。小。こ。小。怪。我。と。さ。る。も。
志。れ。ん。と。し。と。も。名。小。ら。そ。ふ。ま。の。の。小。三。の。身。の。う。人。お。つ。つ。あ。ひ。り。
あ。り。と。う。う。が。わ。め。き。今。う。を。と。つ。て。安。堵。せ。ん。と。ひ。り。り。り。
あ。ま。の。小。こ。が。あ。へ。せ。い。り。ける。 六

八十九
四號

假名文章娘節用三編中之巻 終

